

北園清風「金」個人総合操

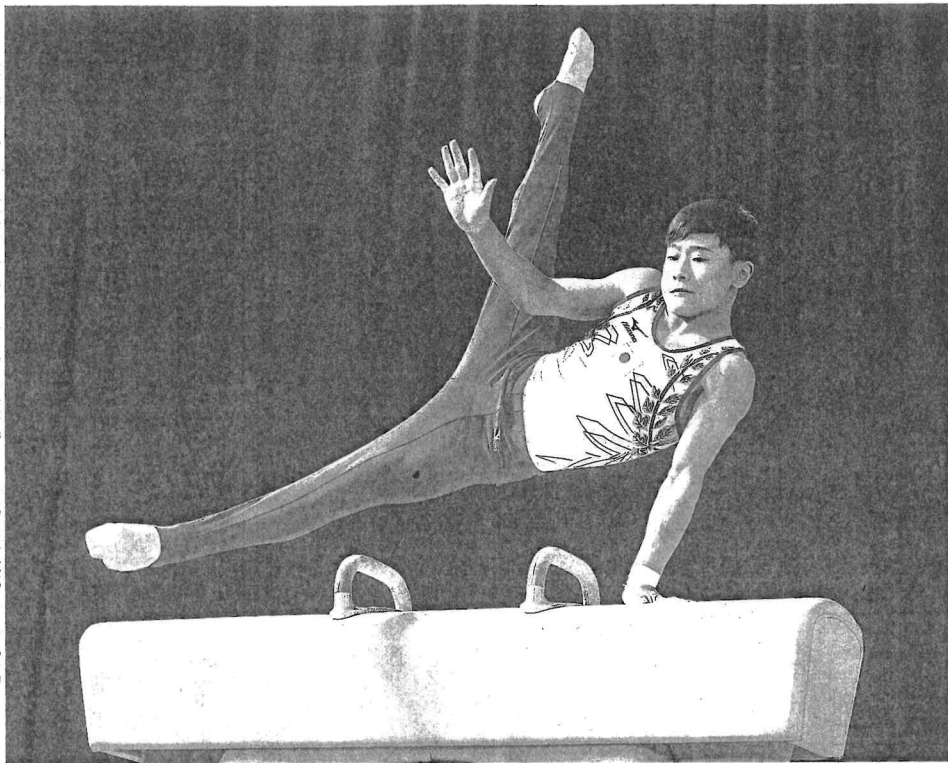
ユース五輪

【ブエノスアイレス 共同】夏季ユース五輪 第6日は11日、ブエノ

スアイレスで行われ、獲得した。初採用のダンススポーツのプレークタンス混合団体では河合来夢（神奈川・百合丘高）がベトナム男子選手と組んで金に輝き、個人との2冠を達成した。

競泳は男子800メートル自由形で吉田啓祐（東京・日豊山高）が7分53秒85で銀メダル。女子400メートルリレーで日本（小嶋、山本、池本、浅羽）は3分49秒27で3位だった。自転車BMXのフリースタイルパーク混合は大霜優馬と丹野夏波（神奈川・白鵬女高）の日本が銅メダルを獲得した。

バドミントンの男子シングルス準決勝で奈良岡功大（青森・浪岡高）はインド選手に敗れた。3位決定戦に回った。



体操男子個人総合で金メダルを獲得した北園丈琉のあん馬

内村も認める完成度

ハイト

15歳とは思えぬ圧倒的な完成度の高さだった。体操の男子個人総合で金メダルに輝いた北園は、憧れの内村航平（リンカーハット）も才能を評価する東京五輪のホープ。「優勝して当たり前と思って

練習してきた。ユースなので、世界一にはまだまだ」と148センチの体に貫禄すら漂わせた。小柄ながら足先まで伸びた美しい演技は目を引いた。あん馬で軽快な旋回を見せれば、つり輪では力技をびたり。最終種目の鉄棒は最終演技者として会場の視線を集め「感じたことのない緊張があった」と言つものの、離れ技から着地まで完璧に決めて両拳を握っ

た。海外からも「内村2世」と注目を集める。全6種目をこなす天性のオールラウンダーと比較されることは「プレッシャーではなくモチベーション」。直接助言をもらったこともあり「内村さんがずっと勝ってきた個人総合にこだわってきた」と尊敬を力に変えていく。

照準を定める東京五輪は高校3年で迎える。「中学に入った時からずっと思い続けている」という譲れぬ夢だ。逆算して成長の道筋を立てる。「これで少し東京に近づいた。種目別でも金を目指し、着地の一步までこだわりたい」とすでに次のステップへ目を向けた。（共同＝吉本泰平）